◎**鳥類**（繁殖期）東部緑地　調査日 ' 20 年 6/10　6/24　7/11

東部緑地の大曲川沿いの遊歩道約1㎞を歩き、半径 50 m以内で確認された鳥類の種名・個体数を記録します。（6/10）朝から*エゾハルゼミ*の大合唱で、野鳥の声が聞き取りにくい。それでも*キビタキ*や*クロツグミ*の声は良く響き確認できました。（6/24）*ウグイス*、*オオルリ*、*キビタキ*、*ツツドリ*の声が良く響き、*シジュウカラ*、*ハシブトガラ*の幼鳥を多数確認しました。（7/11）　若葉が茂り、声はしますが、姿を確認するのが難しく、記録は少な目でした。調査途中で青色の美しい*ミドリシジミ*が乱舞する姿を見ることができました。*クルマユリ*や*ゼンテイカ*など、野の花も目を楽しませてくれます。

◎**鳥類**（越冬期）東部緑地　調査日 ' 21年 1/15　2/5　2/12

例年より、温暖で雪が少ない冬です。スノーシューを履かずに調査しました。

（1/15）カラ類の他に、*ミヤマカケス*、*ヒヨドリ*、*アカゲラ*、*コゲラ*、*ミソサザイ*、*キクイタダキ*、*マヒワ*や*ツグミ*の群れを確認しました。

（2/5）調査開始早々に*シマエナガ*の愛くるしい姿 10 羽確認、*ミヤマカケス* 6 羽も近距離で確認しました。

（2/12）空は快晴、気温は－2℃、厳冬期にしては暖かく陽ざしは春を感じさせます。木道の下にはフキノトウが見られました。*ゴジュウカラ*や*シジュウカラ*、*ハシブトガラ*のさえずりが森の中に響いています。*オオアカゲラ*や*コゲラ*、上空に*トビ*が輪を描いて舞う美しい姿が見られ、ハンノキの実を啄む*マヒワ*がすぐ近くで見られました。

♣♣♣　活動日誌から　♣♣♣

◎**湿地の除草**　'20年7月１日　平岡公園

人工湿地にヨシや外来植物が増えると、湿生植物の生育の妨げになるばかりでなく景観も損なうので、毎年除草や伐採をして湿地の維持に協力しています。今年は木道周辺のヨシ刈を中心に行いました。暑い日だったので大汗をかきましたが、終了後はさっぱりと見通しが良くなった湿地の眺めに、疲れも吹き飛びました。

◎**校外学習**　平岡公園を歩こう　'20年7月22日

毎年、近隣の小学校の校外学習で自然観察のお手伝いをしています。2020年度はコロナ禍の影響でほとんど中止になりましたが、夏休み直前に平岡小学校の特別支援学級の子ども達と平岡公園を歩くことができました。

子ども達が次々に見つける虫や、青く色づき始めたヤマブドウや、興味を引くものがたくさんあって、あっという間に時間が過ぎました。また一緒に歩きたいね！

難民とアオサギ町内会

北海道アオサギ研究会代表　松長克利

ちょうど 2 年前、「繰り返される悲劇」と題する拙文をここに載せていただきました。当時、アライグマのせいですでに風前の灯火だった江別のコロニーは、その後ほどなく完全に消滅。現在は主のいなくなった古巣が風に揺れるだけになっています。江別を去ったアオサギの多くは、その後、篠路五ノ戸の森に移り、もとからいたサギたちとともに 300 つがい近い大所帯で暮らしています。そしておそらく、篠路に向かわなかったアオサギのほとんどは平岡に引っ越してきたはずです。

街でアオサギを普通に見かけるようになってもう 20 年以上になります。もちろん彼らは自ら好んで街に出てきたわけではありません。アオサギ本来の営巣環境がどんどん開発され、おまけにアライグマに追い打ちをかけられ、安全に子育てできる場所がほとんどなくなったために仕方なく出てきたのです。もともと海の近くに営巣していたアオサギの中には、海鳥のように沖合の岩礁に巣をかけるようになったのもいます。けれども、内陸の場合は、街中の社寺林か公園の小樹林に頼るぐらいしかありません。安全に暮らせる場所を求めて、なけなしの林から林へと移動を重ねる、そんな彼らは難民そのものです。街中につくられたコロニーは彼らの難民キャンプ、決して安住の地とはいえません。

そんな中、平岡イオンの森は、街中にある割には比較的安全が保たれている希有な営巣地といえます。周りがフェンスに囲まれアライグマが侵入しにくい上、当面、伐採される心配もありません。そして何より有り難いのは、周りに住んでいる方々がアオサギを受け入れてくれていること。これはとても重要です。そうでない所があまりにも多すぎますから。

人と動物の関わりを考えるキーワードのひとつに Zoopolis という語があります。zoo は動物、polis は市民共同体を意味しています。これは二十数年前に都市環境倫理の分野で提唱された造語で、敢えて訳せば、人と動物の市民共同体とでも言えるでしょうか。この概念が想定するのは、人と動物が互いに主権をもち共存するコミュニティ。言ってみれば、平岡のアオサギが独自の町内会をもつようなものでしょう。多少お行儀の悪い住人ではありますが、お隣の町内会の人たちと思えば彼らへの見方も少し変わってくるかもしれません。さらに、Zoopolis の考え方で興味深いのは、動物に対する私たちの義務として難民への支援が挙げられていること。平岡は営巣地自体はかなり良く保護されていますが、そこに住むサギたちを敢えて難民と捉えることで、さらに積極的な支援の形が見えてくる気がします。

平岡にアオサギが暮らしはじめて今年で 24 年目。もしかしたら、このコロニーに野幌を経験した古参者はもういないかもしれません。一方、江別で被害に遭ったサギたちの記憶は、10 年、20 年先まで残ることでしょう。けれども、そうした記憶も時とともに薄らぎ、やがて忘れ去られる日がいずれやって来ます。そのとき彼らはイオンの森でまだ子育てを続けているでしょうか？　もしそうなら、その時はもはや難民キャンプではなく、ただのアオサギ町内会として、地域コミュニティの中で今以上に人との良い関係が築かれていることを願いたいものです。

発行　**平岡どんぐりの森**

〒004－0033　札幌市厚別区上野幌 3 条 5 丁目12－8

TEL・Fax　011-896-0058　　代表　荒井美和子

ホームページ　http://dongurinomori.web.fc2.com/